

特集

「学校図書館の活用」と「教育の情報化」

学校図書館の役割と教育の情報化の進展
十勝管内における読書環境の整備と課題

【実践例】公共図書館と連携した学校図書館運営

【実践例】学校図書館活用の取組

P. 4 ~ 5

P. 6 ~ 7

P. 8 ~ 10

P. 11 ~ 13

【参考資料①】文部科学省
学校図書館ガイドライン



【参考資料②】文部科学省
第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」



◆学校図書館の役割

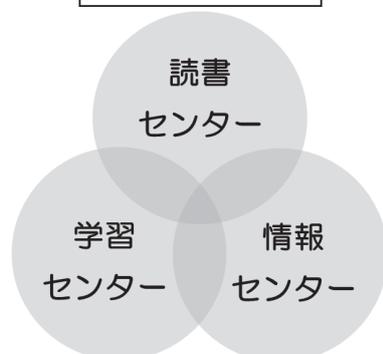
本号の特集では、社会全体で情報化が進む変容期にあつて、その機能が拡張している学校図書館に焦点を当てています。学校図書館に求められる役割や今日的な課題、そして、子どもの読書活動の推進や情報活用能力の育成を目指した十勝管内の実践例を紹介します。また、十勝教育研究所が昨年実施した、読書環境の整備に関するアンケート調査の結果も紹介します。

学校図書館は、学習の基盤となる資質・能力の育成及び読書活動推進という2つの主要な役割を担っています。学校図書館法（昭和28年制定）では、学校図書館が「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備」（第1条）であり、「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」（第2条）であると定義しています。

また、学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つのセンター機能を有しています。学校図書館が各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が期待されています。

さらに、こうした学校図書館を運営・管理する上で重要なことは、司書教諭と学校司書による協働体制を構築することです。司書教諭は情報リテラシー教育の専門家としてカリキュラムに学校図書館活用を位置付け、学校司書は資料・情報の専門家として日々の図書館運営に当たること、学校全体における図書館活用を推進することが求められています。

読む力の育成
人間性の涵養



資料活用で学習を豊かに
授業改善

情報ニーズへの対応
情報活用能力の育成

学校図書館における3つのセンター機能

「1人1台端末時代の学校図書館担当指導主事の仕事と知識」全国学校図書館協議会（令和3年）

司書教諭
「教育・授業」のプロ
教育課程全般に関わる教諭
コーディネーター
学校図書館活用推進の専門家

両輪

学校司書
「資料・情報」のプロ
資料・情報提供の専門家
授業支援者

司書教諭と学校司書の役割

「豊かな授業づくりに学校図書館を！」
全国学校図書館協議会（令和7年）



◆教育の情報化の進展

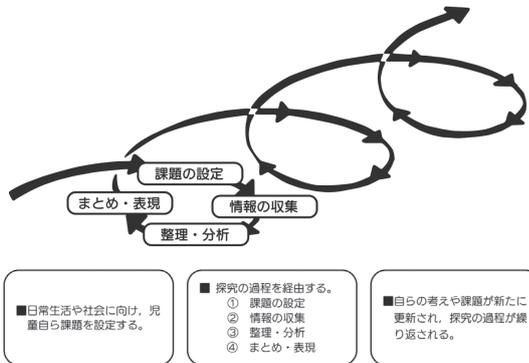
文部科学省の「教育の情報化に関する手引…追補版」(令和2年)によると、「教育の情報化」は次の3つの側面から構成されています。

- ① 情報教育…子どもたちの情報活用能力の育成
- ② 教科指導におけるICT活用…ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現等
- ③ 校務の情報化…教職員がICTを活用した情報共有によりきめ細やかな指導を行うことや、校務の負担軽減等

学校図書館は、各教科の特質や系統性、教科間の関連性に留意しながら資料を提供することを通して、教科等横断的な視点から資料・情報を活用した学びを支えることができます。

このことは、言語能力や情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育成することにもつながります。

学校図書館を活用して情報活用能力を系統的・計画的に育成するためには、全国学校図書館協議会(全国SLA)による「情報資源を活用する学びの指導体系表」を参考にしつつ、教育課程に適切に位置付けることが有効です。



探究的な学習における子どもの学習の姿

「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」
文部科学省(平成29年)

中学校、高等学校の学習指導要領解説総則編にも、上図と同じ図が示されています。



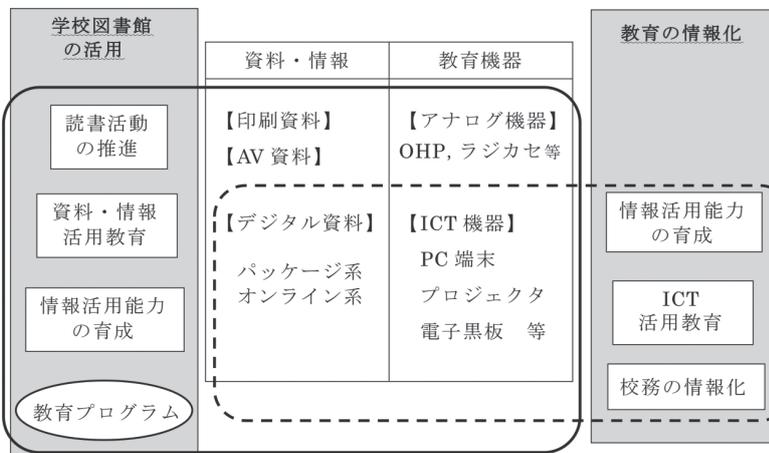
また、総合的な学習の時間などにおける探究的な学習では、左図のように、探究のプロセスを繰り返し体験することを通して、プロセスの各段階で必要となる情報活用能力を身に付けることがねらいとされています。

情報資源を活用する学びの指導体系表

	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年
印刷メディア	<ul style="list-style-type: none"> 表紙が資料を探す手がいらないことになり、図書資料を活用する。 絵本、簡単な読み物 自然科学の本、科学絵本 図鑑 	<ul style="list-style-type: none"> 表紙に加え、目次・索引などが手がいらないことになり、図書資料を活用する。 科学絵本・科学読み物 ノンフィクション 百科事典 国語辞典 漢字辞典 	<ul style="list-style-type: none"> 表紙に加え、目次・索引などが手がいらないことになり、図書資料を活用する。 科学読み物 ノンフィクション 図鑑 事典・辞典類 小学生向け年鑑・統計資料等
デジタルメディア	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて様々な図書資料を活用する。 点字図書 点字図書 外国語による図書 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて様々な図書資料を活用する。 LLブック 点字図書 点字図書 外国語による図書 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて様々な図書資料を活用する。 LLブック 点字図書 点字図書 外国語による図書
印刷メディア以外の印刷メディア	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを知り、活用する。 小学生向け新聞 	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを理解し、活用する。 新聞・小学生向け新聞 小学生向け雑誌 郷土資料 自校独自資料 写真 チラシ 絵地図 	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを理解し、活用する。 新聞・小学生向け新聞 小学生向け雑誌 郷土資料 自校独自資料 パンフレット・リーフレット チラシや新聞の切り抜き等 写真 地図 年表
デジタルメディア以外のデジタルメディア	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを知り、活用する。 小学生向け新聞 	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを理解し、活用する。 新聞・小学生向け新聞 小学生向け雑誌 郷土資料 自校独自資料 写真 チラシ 絵地図 	<ul style="list-style-type: none"> 図書以外の印刷メディアを理解し、活用する。 新聞・小学生向け新聞 小学生向け雑誌 郷土資料 自校独自資料 パンフレット・リーフレット チラシや新聞の切り抜き等 写真 地図 年表

情報資源を活用する学びの指導体系表(一部)

各項目の具体的な記載事項については、右のQRコードから全国学校図書館協議会のウェブサイト参照



「学校図書館の活用」と「教育の情報化」

「1人1台端末時代の学校図書館担当指導主事の仕事と知識」
全国学校図書館協議会(令和3年)



文部科学省の「GIGAスクール構想の実現へ」(令和2年)では、目的の1つに「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」と述べられています。

左図は「学校図書館の活用」の3つのセンター機能と「教育の情報化」の3つの側面を比較して図示したものです。印刷資料がデジタル資料かという形態を問わず、学習者である子どもに即した資料を提供することで、資質・能力を確実に育成するという視点が大切です。

◆十勝管内における読書環境の整備と課題

子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年制定）に基づき策定された、第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、基本方針として4点が示されています。

- 不読率の低減
- 多様な子どもたちの読書機会の確保
- デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 子どもの視点に立った読書活動の推進

このうち、「多様な子どもたちの読書機会の確保」に向けて、読書バリアフリー法（「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」令和元年制定）を踏まえ、障害のある子どもや日本語指導を必要とする子どもなど、多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書環境を整備することが求められています。

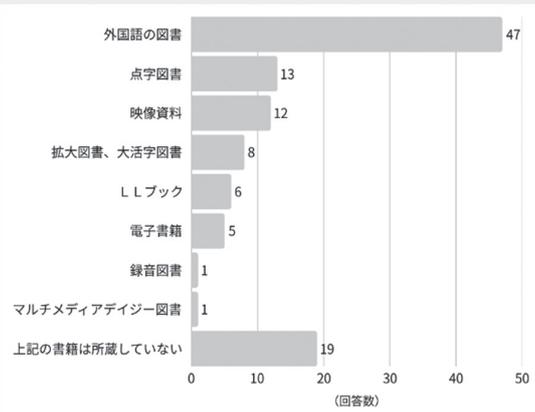
また、「学校図書館ガイドライン」では、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の資料として、次のような例が示されています。

- 電子書籍
- 点字図書
- 拡大図書
- 大活字図書
- 録音図書
- 映像資料

- L.Lブック
- 外国語の図書
- マルチメディアアデイジー図書

十勝教育研究所が令和7年9～10月に実施したアンケート調査の結果から、十勝管内の学校図書館では、これらの様々な形態の資料が次のように所蔵されていることが分かりました。

Q：次のうち、貴校の学校図書館で所蔵されている書籍等がありますか。（複数回答あり、回答数：74校）



多様な背景をもつ子どもたちのニーズに応じ、適切な書籍を整備することが期待されています。



このほかに、読書補助具として、文字を拡大する「リーディングルーペ」や1行分を読みやすくする「リーディングトラッカー」などを整備している学校図書館もあります。

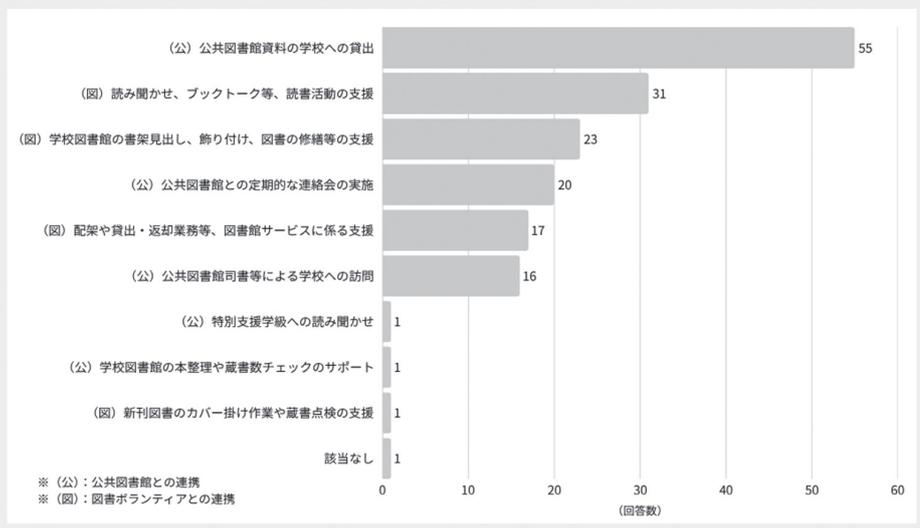


写真提供：音更町立共栄中学校

参考：「誰もが読書ができる社会を目指して」文部科学省



Q：次のうち、学校図書館と地域が連携して取り組んでいるものはありますか。（複数回答あり、回答数：74校）

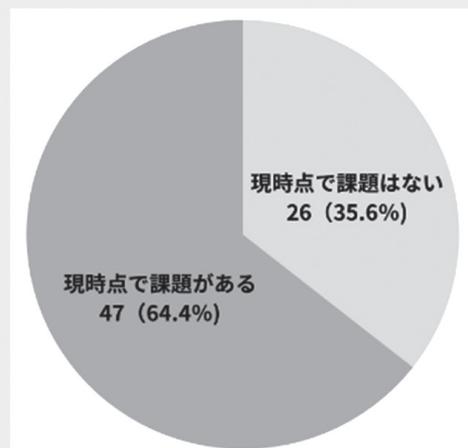


※ (公)：公共図書館との連携
※ (図)：図書ボランティアとの連携

また、子どもの読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校などが中心となり、社会全体で取り組んでいく必要があります。十勝管内の学校では、子どもたちの読書機会を確保するために、学校図書館と公共図書館や図書ボランティアが連携して、公共図書館資料の貸出しや図書館司書による読み聞かせなど、多様な読書活動を展開していることが明らかとなりました。

一方で、アンケートにご協力いただいた学校のうち約6割(64・4%)が、読書環境の整備について現時点で課題があると回答しました。

Q：貴校の学校図書館における読書環境の整備について、課題として考えられることはありますか。(回答数：73校)



得られた回答を基に、読書環境の整備に関する課題について、次の5項目に整理しました。

- 1 蔵書の量・質に関する課題
 - 子どもの数に対して蔵書数が少ない。資料の発行年も古く、更新が進んでいない。
 - 新刊図書や百科事典の所蔵の充実が求められている。

- 2 学校図書館の環境・設備に関する課題
 - 教室以外に自由に読書できる空間がなく、読書活動や読書習慣の活性化が難しい。
 - 図書室開放時に十分なスペースが確保できず、配置の工夫が必要である。

- 3 図書管理・運営体制に関する課題
 - 図書の管理が従来の手法のままであり、図書館管理システムの導入が必要である。
 - 購入図書の選定や登録、配架、貸出し、整理整頓など、日常業務の負担が大きい。

- 4 読書活動・意欲の低下に関する課題
 - 学校図書館の利用率が低く、借りる本の数も少ない。
 - 委員会活動など、子ども主体の読書活動の推進が必要である。

- 5 読書支援・取組の工夫に関する課題
 - 家庭や地域との連携を通じて、読書活動の充実を図りたい。
 - 教科担当教員に購入希望図書アンケートを取り、学校図書館の利活用につなげたい。
 - 日本十進分類法(NDC)に沿った配架により、本を探しやすくしたい。

学校における読書環境の整備を推進するためには、学校図書館の計画的な利活用や、教育活動との機能的な結び付きが重要です。また、公共図書館との連携を通して、子どもたちの生涯にわたる学びを支える読書環境を構築するという視点も欠かせません。

そこで、本特集の締めくくりとして、十勝管内における実践例を次の2つの観点からご紹介します。1点目は、「公共図書館の図書館司書の立場

から考える、公共図書館と連携した学校図書館運営」について。2点目は、「司書教諭や学校図書館担当教諭の立場から考える、学校図書館活用の取組」についてです。今回、十勝管内における実践例では、3名の図書館司書の方と、十勝管内教育研究サークル協議会十勝学校図書館サークルの3名の先生方にそれぞれ実践を提供していただきました。

社会の変化が激しく、予測困難な時代において、学習の基盤となる資質・能力を育む読書活動の推進は不可欠です。読解力や想像力、思考力、表現力等を養うだけでなく、情報活用能力の育成についても、義務教育9年間を見通した、系統的・体系的な学習の積み重ねが期待されています。デジタルとアナログ、その両方の基盤となり、新たな時代の学びを支える学校図書館の役割は今後ますます重要になるでしょう。本特集が、子どもたちにとってよりよい読書環境の整備や、家庭・地域・学校の協働体制による学校図書館の充実の一助となれば幸いです。

【参考文献】

- 『学校図書館活用の考え方と実践事例』堀川照代編著、樹村房、令和7年
- 『学校の「読書バリアフリー」はじめの一歩』野口武悟編著、学事出版、令和6年

十勝管内の実践例①

音更町図書館と連携した学校図書館運営

1 音更町図書館の特色ある活動

- ・音更町図書館では、各年代に応じた読書推進活動のための取組を進めています。乳幼児期の子どもと保護者を対象にブックスタートや読み聞かせイベントを実施し、小学生向けにリーディングスタートや各種文庫事業に取り組んでいます。また、中学生や高校生向けにティーンズコーナーを充実させたり、職場体験やインターンシップを受け入れたりしています。
- ・令和5年度にスタートした「音更町電子図書館事業」では、1人1台端末を利用する町内の全ての子ども及び教員約3,600人に利用者IDを発行しています。電子図書館には、学校の朝読書の時間等で利用してもらいやすいように、同時に何人でも同じ本を読むことができる電子書籍を導入したり、調べ学習に役立つ図鑑なども取り揃えたりしています。



【小学校での読み聞かせの様子】



【年代別の特設コーナーも充実】

2 現在取り組んでいる学校図書館との連携

- ・移動文庫事業では、音更町図書館から離れた校区にある小学校5校へ毎月約200冊から300冊を配本し、本の入替え作業と併せて、休み時間に読み聞かせも実施しています。学級文庫事業では、大規模校6校に1学級当たり40冊ずつ配本し、年2回（8月と1月）の入替えで読書環境を整えています。
- ・電子図書館の利用に当たっては、各中学校区に配置されている学校司書5名によるきめ細かいサポートもあり、令和6年度の利用実績（貸出冊数17,420冊、貸出人数10,992人）のうち約8割が1人1台端末からの利用となるなど、子どもたちが読書に親しむ機会の創出につながっています。
- ・音更町図書館のイベントと連動した展示を学校図書館内で行うなど、学校と地域の図書館が一体となって子どもたちの読書活動を支えています。



【体験型イベントの際の展示】



【電子図書館の朝読特集】

3 音更町図書館運営上の課題とこれから

- ・限られた予算の中で、多様化する利用者のニーズや課題解決に必要な資料をバランスよく収集し、提供することが求められています。
- ・本に親しみ、読書に触れる機会を拡大するために、紙の本と電子書籍それぞれのよさを発信し、利用環境を整えることが必要であると考えています。

4 子どもの読書活動推進に向けて

- ・謎解きイベントや司書体験、デジタル絵本づくりワークショップなど、子どもたちが音更町図書館に足を運ぶきっかけになるような体験型のイベントに力を入れています。
- ・学校と連携し、図書館司書による出前授業を行っています。授業で子どもたちが制作したPOPは実際に展示しており、来館者にも大変好評です。

5 今後の展望（更なる連携推進など）

読書は、子どもたちが自分の力で学び続けるための土台づくりであると考えています。今後も様々な機会を通じて学校図書館との連携を推進し、新しいことにも積極的にチャレンジしながら、子どもたちの読書活動の支援と図書館サービスの充実に努めていきたいです。



図書係長 足立 史織（音更町図書館）

十勝管内の実践例②

足寄町図書館と連携した学校図書館運営

1 足寄町図書館の特色ある活動

- ・足寄町立足寄中学校と連携し、読書好きの中学生が「図書館中学生サポーター」として、年間を通して図書館の利用促進活動に取り組んでいます。
- ・本の魅力を伝えるためのPOP制作や、サポーター自身がお薦めしたい本を紹介する展示コーナーの設置などを実施しています。こうした図書館活用指導を通して、子どもたちと図書館職員が協働し、読書の楽しさを発信するとともに、次世代を担う読書リーダーの育成に取り組んでいます。



【サポーターによるPOP制作】



【本を守るブックコートも行う】



【工夫されている展示コーナー】

2 現在取り組んでいる学校図書館との連携

- ・子どもたちが多様な本に出会うことを目的に、町内各校へ月1回の巡回配本を実施することで読書活動を支援しています。下の写真のように、足寄町図書館の蔵書を学校のフリースペースに並べることで、子どもが興味のある本を探したり、自由に手に取って読んだりすることができるようになっています。
- ・1年間を通して、図書館司書が町内各校を巡回し、図書委員を対象として本のPOP制作や読み聞かせ指導を行っています。これらの取組が、子どもたち自身が本の楽しさを広めていく「読書の担い手」として成長するきっかけづくりになっています。



【本を机に広げて展示する】



【興味のある本を手にとって読むなど、子どもが思い思いの時を過ごす】

3 足寄町図書館運営上の課題とこれから

- ・地域の情報発信や交流の拠点として、より多くの町民が主体的に足寄町図書館を活用できる仕組みづくりを推進していきます。
- ・「読書バリアフリー法」の理念に基づき、障害の有無にかかわらず、全ての人々が読書を楽しめるよう、ユニバーサルデザインの視点で環境を整備し、誰もが利用しやすい資料の充実をめめます。

4 子どもの読書活動推進に向けて

- ・町内各校の年間指導計画に沿った関連図書の貸出しを通して、学校教育支援に取り組めます。
- ・読書に関心が薄い子どもを対象として、足寄町図書館において親しみやすい講座を開設し、各種の体験活動と連動した事業を充実させていきます。
- ・本への興味を引く多角的なアプローチを展開し、不読層の改善と読書習慣の定着を目指します。

5 今後の展望（更なる連携推進など）

足寄町図書館は今後も町内各校と連携し、学校図書館の資料充実や環境整備を推進していきたいと考えています。子どもたちが身近な場所で本に親しみ、読書を楽しめる環境づくりに取り組み、地域全体の読書活動を支えていきたいです。



主任 村田 美佳（足寄町図書館）

幕別町図書館と連携した学校図書館運営

1 幕別町図書館の特色ある活動

- ・図書館と書店、福祉事業所が連携した取組を行っています。書店が幕別町図書館や中学校図書館から受注した図書を福祉事業所に配送し、そこでブックコートやラベル貼りを施した上で図書館に納品します。この域内循環の仕組みは「幕別モデル」と呼ばれ、文部科学省の「図書館・書店等連携実践事例集」でも紹介されました。
- ・コンテンツが豊富なホームページや、「カメレオンコード」といったICTツールを運用し、幕別町独自の本棚構成を行うことで、利用者に多角的な本との出会いを提供しています。
- ・図書館の公式キャラクターを活用し、図書館と本を身近に感じる取組を行っています。令和7年度には、キャラクターが登場するオリジナル絵本を製作し、町内の小学1年生全員にプレゼントしました。



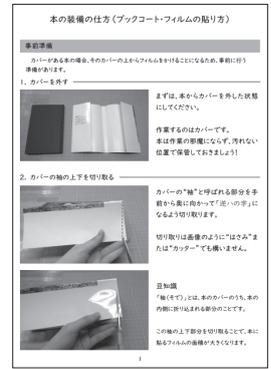
【図書館公式キャラクターが登場するオリジナル絵本】

【「カメレオンコード」の詳細は、幕別町図書館のウェブサイト参照】



2 現在取り組んでいる学校図書館との連携

- ・町内各校の実情に即した運営支援として、学校ごとに「図書館運営マニュアル」を作成しています。併せて、要望や現況に応じた図書館の改装や除籍作業により、読書環境の整備を支援しています。
- ・町内の小学校を対象に、移動図書館車の巡回や、「朝読セット」などの団体貸出サービスを提供しています。図書館が選書した学級単位の図書セットは、校内利用だけでなく家庭への持ち出しも可能であり、読書機会の拡大を図っています。
- ・幕別町図書館と中学校図書館で蔵書管理システムを統一しています。あらかじめ図書データを一括して登録することで、学校への納品後、直ちに貸出せるように資料登録の運用体制を支援しています。
- ・学校図書ボランティアを対象に、ブックコートかけ等の講習会を実施しています。活動に携わる人が誰でも取り組めるよう、マニュアルを作成して提供しています。



【提供している作業マニュアル】

3 幕別町図書館運営上の課題とこれから

- ・生涯にわたる読書習慣の形成には、年齢や場に応じた機会の提供が肝要です。幕別町図書館では子どもの身近に本がある環境づくりを目指し、様々な機関と本を介した連携事業を実施しています。これからも、連携の輪を深め広げていきます。
- ・誰もが豊かな読書体験を享受できるよう、点字図書や音声図書、拡大図書等、誰もが利用しやすいアクセシブルな書籍やその状況に応じた機器・設備を整備していく必要があります。

4 子どもの読書活動推進に向けて

- ・子どもが本に触れるきっかけづくりと身近に本がある環境づくりのため、本の帯コンテストといった、本を媒体としたイベントを開催しています。
- ・中学生向けに「はざま文庫」コーナーを設置し、関連するブックリストを年4回発行しています。
- ・赤ちゃんに絵本をプレゼントする「マイファーストブックサポート事業」では、絵本と共に北海道中札内高等養護学校幕別分校の生徒が製作した絵本バッグを贈る連携事業を実施しています。

5 今後の展望（更なる連携推進など）

学校図書館の利用促進を図るため、幕別町図書館の蔵書を、来館しなくとも学校内で借りられる仕組みを構築しているところです。また、国語科の学習単元と連携し、図書館司書がPOPづくりの講座を行い、図書館での展示や本の帯コンテストの参加につなげました。授業から広げた読書活動の取組を連携して実施していきたいと考えています。



図書係長 民安 園美（幕別町図書館札内分館）

十勝管内の実践例④

学校における読書活動推進【小学校編】

1 学校図書館の3つの機能

読書センターとしての機能	学習センターとしての機能	情報センターとしての機能
子どもの居場所づくりとして、自由で多様な読書活動の場。 ・児童会主催のイベント ・コミュニケーション形成 等	学習を支える図書館として、情報収集や知識深化の場。 ・図書の更新や新聞等の配備 ・資料の収集、整理、提供 等	あらゆる学習の基盤となる、学習スキルを身に付ける場。 ・日本十進分類法による配架 ・情報リテラシー教育 等

子どもへのサポート として ○司書教諭等の専門的な関わり 具体的に ○授業での学校図書館の利活用
 教員へのサポート ○公共図書館等との連携 ○電算化による書籍の管理、レファレンス

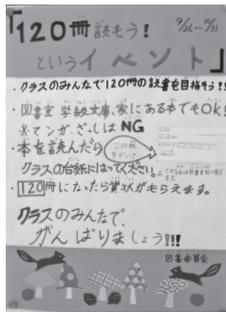
2 子ども主体の図書館づくり

- ・子どもが選書する機会を作ることを目的に、スタンプラリーや読書イベントを実施し、楽しみながら図書館に足を運ぶ機会を増やしました。読み聞かせイベントや、しおり集めなども人気でした。
- ・児童会活動と連動した居場所づくりの一環として、季節に合わせた装飾やお薦め本の展示、POP・帯づくり、館内BGMの選曲を行いました。図書委員によるパソコンでの貸出し業務も、人気の活動です。
- ・読書への関心を育むことを目的に、図書の整理作業の際には、頻繁に来館する子どもや清掃当番の子どもたちが参加する仕組みを取り入れました。



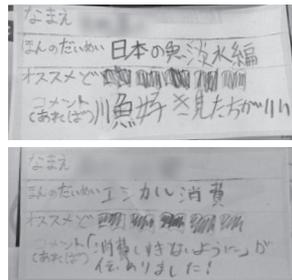
【図書委員による読み聞かせイベント】

【開校120周年の企画「120冊読もう!」では、1か月で1562冊の感想が集まった】



3 学校図書館担当教諭が意識したいこと

- ・学校図書館をより魅力的な空間にするために、図書の発注や受入れ、配架、除籍等の作業は明確な計画をもって行うこと。
- ・子どもたちの主体性に寄り添い、自発的な思いや願いを実現するための手助けをすること。
- ・選書に当たっては、教師と子ども双方の要望を反映させるとともに、図書館の蔵書の現状を精査し、不足している分野の図書を積極的に拡充すること。
- ・子どもたちが安心して図書館を利用できるよう、開館時間内は司書教諭や学校図書館担当教諭が常駐し、適切な見守りと指導體制を整えること。



【廊下に本の感想を多数掲示】



【休み時間の図書館開放】

4 今後の展望（情報化の中で図書館の価値を高めるために）

今回は、前任校である新得町立新得小学校での実践をご紹介します。現任校では学校図書館担当教諭ではありませんが、芽室町では「芽室町電子図書館サービス」が1人1台端末から利用できます。こうしたICT活用も進めつつ、紙の本ならではのよさや、子どもたちの居場所としての学校図書館の役割を大切にしたいです。

管内にはまだ電算化されていない学校図書館もありますが、電算化は資料の検索や貸出し業務の効率化にとって不可欠です。また、学校司書の配置や公共図書館からの司書派遣といった人的資源の確保も大切であり、その上で司書教諭との協働体制を確立していくことが重要です。



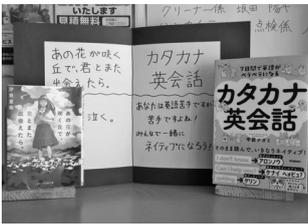
教諭 **岩崎 夢萌** (芽室町立芽室小学校)

十勝管内の実践例⑤

学校における読書活動推進【中学校編】

1 本校における読書活動推進の取組

- ・新得小学校で読書活動が盛んだったこともあり、読書に親しんでいる子どもが多く、昼休みに開館する図書館はいつもにぎわっています。
- ・図書委員お薦めの本の紹介コーナーを各教室や玄関ホールに設置し、図書館という空間を越えて校舎全体で本に親しめるように工夫しています。
- ・玄関ホールに書見台付きの新聞閲覧コーナーを設置。誰でも開きやすく読みやすい環境です。



【お薦め本の紹介コーナー】



【新聞を閲覧している子ども】

2 現在取り組んでいる町立図書館との連携

- ・新得町図書館が購入やデータ管理、装丁などの学校図書館運営に必要な業務を全て担っています。
- ・総合的な学習の時間や各教科の学習に必要な図書の貸出しを受けることができ、多くの書籍に触れることで学習効果の向上に寄与しています。
- ・年1回、町内各校の図書館担当教諭を対象に、新得町図書館の方から図書館運営や読書推進の取組に関する説明を受け、情報交流をしています。



【新得町図書館の貸出しコーナー】



【データ管理によって図書委員の貸出業務も効率化が進む】

3 読書活動を通しての子どもの姿

- ・読書好きの子どもたちが興味深かった本を互いに薦め合うことで、それまで読書に興味がなかった子どもも本に手を伸ばすようになっていきます。
- ・子どもたちは学校のみならず、家庭でも読書に親しんでいます。一度読書が楽しいと感じると、ゲームやインターネット以上に魅力を感じるようです。読書の楽しさを知ることは、子どもたちにとって生涯にわたる大きな財産となるでしょう。



【図書館や玄関ホールは学習スペースとしても活用されている】



4 読書指導を通しての教師の姿

- ・読書に親しむ機会を増やし、本との新しい出会いを提示しています。感銘を受けた本を紹介するなど、子どもが読める本の幅を広げています。
- ・読書が好きな子どもの言葉や考えを紹介しています。読解力の向上が学習面での大きな伸びにつながる可能性があることを伝えています。
- ・読書はあくまでも楽しみながら行うものなので、押し付けにならないように気を付けています。



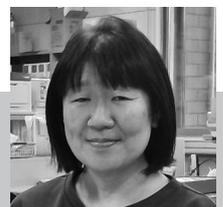
【読書活動の積み重ねはICT活用や探究的な学びへとつながる】



5 今後の展望（更なる活用方法など）

現在、多くの子どもが意見発表文やレポート作成のどこかで生成AIの力を借りているでしょう。しかし、まずはその便利さの陰に潜む危うさについて、私たち大人が真剣に考える必要があります。例えば、生成AIはあくまで添削等の補助的な使用にとどめるなど、適切な利活用の在り方について検討すべきではないでしょうか。

人間が本来もっている「考える力」を守り、さらに伸ばしていくために、今こそ読書習慣という揺るぎない土台が大きな力になることを願っています。



教諭 **鈴木 静恵**（新得町立新得中学校）

十勝管内の実践例⑥

学校における情報活用能力の育成【小学校編】

1 本校での情報活用能力育成に向けた取組

- ・第3学年以降の総合的な学習の時間（一部の活動に低学年も参加する）で、J A 中札内村青年部と連携し、野菜の栽培の仕方や世話、収穫までの方法を調べて、写真と共に記録をまとめています。
- ・情報センターとしての機能を意識付け、図書コーナーの資料を使用したり、図書館の本を借りたりして、情報を「探す」「見つける」「記録する」「発表する」へと段階的に学習を積み上げました。



【育てた野菜の様子を発表する子ども】

2 現在取り組んでいる村立図書館との連携

- ・中札内村図書館から学級文庫の貸出しを受けています。子どもたちの希望に基づいて提供される本は、興味・関心の高いテーマや各教科の学習内容に合わせてきめ細かく選定されています。
- ・月に1度、図書館司書が村内各校を巡回し、約100冊の本を配架しています。その場での閲覧や貸出しに対応しており、低・中学年を中心に、様々な本への興味を高める貴重な機会となっています。



【中札内村図書館から提供されている移動図書】

3 探究的な学びを通した子どもの姿

- ・第6学年では国語科や社会科、理科等において1人1台端末を活用した学習に取り組んでいます。
- ・学習課題に基づき、「資料の作成→交流→発表」の過程を習得し、現在は自ら立てた課題を探究する学習に重点を置いています。課題を意識し、自ら考えて構成しようとする意欲は高まりましたが、安易な検索や生成AI利用への依存を抑えつつ、適切な情報リテラシーを育むことが課題です。



【1人1台端末で資料の作成に取り組む子ども】

4 情報活用能力育成に向けた教師の姿

- ・令和7年度に1人1台端末が更新されたことに伴い、村内全校及び自校において、講師を招へいして端末の基本操作やデータ管理、他校での活用例の情報共有を目的とした研修会を実施しました。
- ・既存のデータの確実な移行といった実務の対応に加え、学習指導時における子どもたちのデータの取扱いや使用ルールの更新などに関する指導の体系化が喫緊の課題となっています。



【TVモニターで画面を共有して説明する教師】

5 今後の展望（更なる活用方法など）

便利なICTツールが提供される環境下にあっても、子どもたちが「何を、どのように考えるか」を深める上で、情報センターとしての学校図書館の役割は重要です。本とICTを併用した授業において、子どもたちがそれぞれの有用性を実感している事例もあり、多様なメディアとICTを最適に使い分けていくことが、学びの深まりにも大いに寄与することでしょう。本かICTかの二者択一ではなく、双方の長所を柔軟に使い分けて提示することができる教師側の学びと研さんが求められているのではないのでしょうか。



教諭 増岡 英寿（中札内村立上札内小学校）